

## キタ 再発見の会



大阪キタのエリアは従来より交通やショッピングの拠点ということで「訪れる」まちの色合いが強いエリアですが、近年オフィスワーカーやお住まいの方、学生の方も増えており、「働く」、「住む」、「学ぶ」まちの色合いも徐々に濃くなっています。キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただくきっかけとして、この度連続講座「キタ再発見の会」を開催します。近年、まちの機能として職場や学校、自宅以外の「サードプレイス」が必要といわれております。「キタ再発見の会」はキタエリアのサードプレイスになることを目指しています。皆様に気軽に立ち寄っていただき、夜のひとときにゲストトークや意見交換を愉しんでいただければ幸いです。

### 第3回キタ再発見の会

- テーマ 『線から面へ 一 天六・天神橋筋商店街の歴史と高い』
- 講師 大阪市北区商店会連合会特別相談役 吉村孝司 様  
(株式会社ヨシムラ代表取締役)
- 日時 2017年12月21日(木) 18:30-20:30
- 会場 都市活力研究所セミナールーム

天六生まれの天六育ち、天神橋筋を知り尽くしている吉村孝司さん。「この辺りは江戸時代から街道商店街だった」「新京阪天六駅ができて大阪の拠点の一つになった」「昭和33年にアーケードが完成し、式典には野村克也選手、吉田義男選手やミスユニバースのパレードがあった」「これまでの商店街は“線”だったが、これからは“面”で考えるべき」などなど、歴史からまちづくりまで、さまざまな視点で天神橋筋を掘り下げていただきました。

【司会】 本日のゲストの吉村さんは、昭和21年天六生まれ、これまでに天六商店街をベースに梅田のエスト1、ロフトや船場・三休橋筋などで、紳士服、婦人服、時計、輸入雑貨などの小売業を営んでこられました。その間、天六商店街振興組理事長を14年間務められ、昨年まで天神橋筋商店会理事長、北区商店会総連合会副会長でもいらっしゃいました。現在は大阪市北区商店会総連合会特別相談役、三休橋筋商業協同組理事でいらっしゃいます。

私は吉村さんとは、大阪都心部の三休橋筋のまちづくりで15年ぐらい活動を共にしてきました。これまでの豊富なご経験と行動力で活動をリードされ、私にとっては「まちづくりの師匠」のような存在なのです。その吉村さんにご自身のホームタウンである天神橋筋についてしゃべってほしいとタメトモでお願いしたところご快諾いただきました。本日は私からのインタビュー形式で進行させていただきます。

【司会】 まずはまちの成り立ちについてお伺いします。

【吉村】 天神橋筋は江戸時代からの街道商店街でした。亀岡街道を通過して北部から青物を天満市場へ運んでいたのですが、明治8年に豊崎橋ができるまで橋はなく、渡しが十数か所あったようです。現在阪神高速が通っている堀川では海鮮問屋が船でものを運んでいました。天満橋は夕涼みの橋であり、天満宮には南方面から訪れる人が多かったようです。天神祭りの時に天神橋の北側だけに提灯が灯されるのは、天満宮と神津神社の氏子の境界が天神橋の真ん中であることがその由来とのことです。天神橋筋の1本東が吉原筋で昔は墓地でしたが、それが移転して天満周辺が開発されました。



貞享4年(1687年)新撰増補大坂大絵図 \*国土地理院HPより



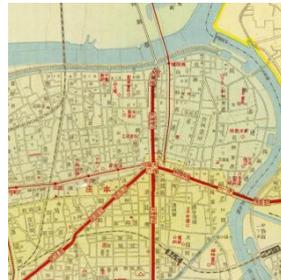
「北妙見堤」珠齋國員画 \*大阪こちずぶらりHPより

【司会】 その後、明治期には大川沿いに大工場ができて、まちが発展したようですね。

【吉村】 明治4年に大阪造幣局が操業を始め、その後も紡績工場、三菱精錬所などの大工場が大川沿いに立地し、周辺には下請け工場が集積、労働者が集まり、労働者向けの食、住娯楽関連の施設が立地しまちが形成されました。天神橋筋1~3丁目は江戸から明治にかけて、4~6丁目はそのあとに形成されたというところですね。明治28年には国鉄天満駅も完成しています。また天六の南西の浪花町にはガラス工場があり、大阪の名産品である天満切子が製造されていました。明治の中頃には「天神橋筋6丁目」という地名が確認されています。

【司会】 大正時代の地図を見ると、天六周辺には幹線道路が通り鉄道も集積する、梅田に匹敵する大阪の拠点であったと思われる。大正期から戦前にかけては、どんな状況だったのでしょうか？

【吉村】 大正14年(1925年)の第1次市域拡張で、西成郡吉原村であった天六周辺が大阪市に編入されました。大大阪時代の幕開けであり、同年に新京阪天六駅(のちの阪急天六駅)ができています。開業当初は高槻までで、その後少しずつ延伸して京都までつながりました。当初は天六駅の北側に長柄橋駅がありましたがすぐなくなっています。当時京阪は天満橋駅がターミナル駅であったのですが、天六駅と天満橋駅を結ぶ構想があったようです。また市電が大正2年天六まで延伸され、大正3年には阪神北大阪線(昭和50年に廃止)も開業、西方面からも人が来るようになりました。私も甲子園球場に行く時に利用しており、重要な地域の足だったのです。天六駅ができたことにより天神橋筋4~6丁目が発展しました。今でも床賃料は1~3丁目に比べて1.5倍ぐらいだと思います。また江戸時代からおよそ300年間、天満橋北側に天満市場があり、その賑わいもありました。天六~天満橋間は歩く人も多くとてもにぎわっていました。



1928(昭和3年)の地図



新京阪鉄道(株)天神橋筋停留所(新京阪ビル) 1926年(大正15年)

【司会】 戦後、まちはどのように変化したのでしょうか？

【吉村】 一言でいうと闇市からの復興という感じですね。戦後すぐは「闇市とヒロポンのまち」というイメージだったようです。1946年に阪急電鉄が新京阪を買収し、阪急天六駅になりました。それ以降、天六は「阪急村」というイメージが確立されます。昭和45年に地下鉄堺筋線ができるまでの45年間、天六~天満橋間を歩く人が多く、昭和30年代がピークでこのエリアが大いににぎわっていました。昭和45年には天六ガス爆発事故があったのですが、いま暮らしの今昔館が立地している場所に北市民館という施設があり、そこに対策本部が置かれていました。

【司会】 次に天神橋筋商店街のことをいろいろお聞きしたいと思えます。お話を伺って、江戸時代から栄えたエリアであったことがよくわかったのですが、商店街としてはどのような形成し、どのように発展したのでしょうか？



【吉村】 戦後の天六には大阪の5大闇市のひとつがありました。天六は大大阪→闇市→発展という大阪の象徴的なまちなのです。大規模開発なしにまちが発展してきたわけで、歴史の重層性があるって実現できたまちなのです。

1946年に商店街を法人化したのですが、それは日本初のことでした。また心斎橋と天五、天六が大阪で最初にアーケードを設置した商店街なのです。昭和33年11月に完成し、記念式典がおこなわれました。有名プロ野球選手やミスユニバース日本代表が参加されています。写真には、南海ホークスの野村克也選手、杉浦茂選手、阪神タイガースの吉田義男選手、阪急ブレーブスの本屋敷錦吾選手など、当時のスター選手が写っています。



昭和33年11月におこなわれた天神橋筋アーケード完成記念式典の様子。

天神橋筋商店街は1、2、3丁目と4、5、6丁目で別組織になっています。7丁目は旧大淀区エリアでしたので、別組織です。天神橋筋4～6丁目は天六駅を中心に発展したターミナル型商店街です。一方、天神橋筋1～3丁目は大阪天満宮を中心に発展した門前商店街と言われていますが、私は古くからの街道沿いに形成された街道商店街ではないかと考えています。1～6丁目にはおよそ600店舗が集積しており、延べ床面積は約18,000坪になります。これは阪神百貨店に匹敵する規模で、通常は広域型商業施設でないとならないはずなのですが、天神橋筋では地域型＋一部広域型で成り立っているのです。ナショナルチェーン店が少ないのが一つの特徴です。また天六～天満駅の間約200店舗あるのですが、その半分は紳士服店、残りの多くは靴屋というのも特徴かと思っています。さらに天満裏から北へ伸びて、飲食の集積は2000軒を超え、いまやミナミに次ぐ規模になってきているのです。

いまや大いに賑わっている天神橋筋商店街ですが、世の中が高度経済成長の時代に、昭和45年の地下鉄堺筋線開通以降歩行者数が減少し、低迷していた時期がありました。集客イベントとして扇町の旧大阪プールで「天神橋筋商店街歌謡の夕べ」を年1回開催し、当時売れっ子芸人だったかしまし娘が来てくれたりもしていました。1981年には天神祭りのギャル神輿を立ち上げています。4年前に外国人向けマップを作り8万部発行しました。

さらに天神橋筋のまちのブランド化も手掛けました。まちの個性、まちの魅力をどう発信するかを考え、試行してきました。その一つとして、大阪駅の伊勢丹百貨店10階催物会場で天満天神グルメイベントを開催

しました。「北海道や九州など、ふだん行けないところは客が集まるが、近場の天神橋筋では無理だろう」と言われたのですが、多くの人を集めることができたのです。まだまだ知らない人がいるので、その人たちにどう伝えるかが大切であることを再確認しました。



1967年(昭和42年)の天神橋筋商店街

天神橋筋商店街歌謡の夕べに出演したかしまし娘

【司会】 天神橋筋周辺のまちはどんな状況だったのでしょうか？

【吉村】一言で言うと、「ハシの梅田に対するケのまち」といったところでしょうか。「デフレのハキタメ」、つまり低価格のまちなのです。かつて闇市だったという悪いイメージもありますが、低収入でも生活できる、住みやすいまちと言えるのではないのでしょうか。また大阪ガスの扇町ミュージアムスクエアとのつながりによって、演劇や音楽関係者とのネットワークを活用することもありました。

【司会】 商店街組織の役員を長く務められた立場で、大阪の商店街についてお考えを聞かせてください。

【吉村】 1946年から当時の通産省が商店街の近代化を進めてきたのですが、基本的な考え方は「線」で商店街をつくり、それが現在に至っています。今後も「線」のままでもいいのか？「面」としてとらえるべきではないのか？私は商業発展のためには「面としての組織化」が必要だと考えています。商店街だけのニーズで物事を考えるのではなく、周辺を含めたニーズで考えるべきです。

また助成金を当てにしない「かせく商店街」にしていくべきだとも思っています。これまでは75%が補助金で、残り25%の内90%は無利子融資だったので、アーケード化が進んだわけですが。現在は補助率が30%となっており、今後は青空化が進むだろうと思います。

【司会】 最後にこれからの天神橋筋について考えを聞かせてください。

【吉村】 まちの「におい」を大切にしたいと思います。それは若い人に伝わることだと思います。また路面で遊べるまちが少ないので、天神橋筋は今のままの形で残したいと思っています。

【司会】 タウン誌「Meets Regional」の最新号で天満が特集され、その締めくくり吉村さんが登場しています。最後にそれを紹介させていただきます。

～南北3キロの日本一長い商店街は、今週末には5万人の人出がある。「あの頃の4割減やけど」とニヒルに言い放つ吉村さんみたいな元遊び人風の大人が居るのも、この街らしい。庶民の繁華街の臭いは今も染みついている、「それが天満に今、若い子を呼ぶんとちゃうかな」。語るほどに臭いが濃くなる、深海のような街なのだ。～



Meet Regional 天満・梅田・福島 (2017年8月16日初版発行)